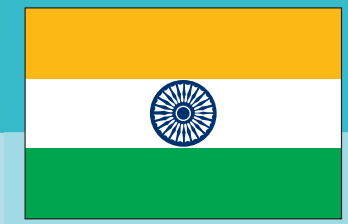




世界の“NOW”を探る現地探訪〈2025年6月取材〉

インド南部の産業・生活・文化



2000年代以降、ICT産業や化学・機械工業の発展により急速に成長したインド。先端企業と伝統的な生活・文化が同居するインド南部の今をレポート！



ヒンドゥー教で聖なる生き物とされる牛は街中にも



「ラモジ・フィルムシティ」の広大な敷地に点在するスタジオを巡るバスツアー



世界中で大ヒットした大作アクション映画に使われた巨大なセット



世界各地の街並みを模したセット

1 Hyderābād ハイデラバード

庶民の夢「映画産業」の今
世界一の映画大国インドの現状とは？

年間制作本数で世界一のインド。「ボリウッド」と呼ばれるムンバイやハイデラバードなどインド南部の都市がその制作拠点です。写真の「ラモジ・フィルムシティ」は、ハイデラバード郊外にある世界最大の撮影スタジオ兼テーマパークで、多くの観光客が訪れています。しかし、近年はインターネットでの配信に押され、映画館人気は下降気味とも。



▲idea Forge社で開発されたドローン。

2 Bengalūru ベンガルール

「ICT強国」インドの実力
先端企業が集まるベンガルールで見たその実態！

多言語国家であるインドでは、英語が共通語として使われています。また、数学やコンピュータ教育に力を入れてきたこともあり、ICT（情報通信技術）産業が大きく発展しました。その一つ、写真のidea Forge社は世界的なドローン・メーカー。オフィスには紙の書類などはほとんどなく、オフィスカジュアルな服装の社員が働いています。



Quiz インドの空き地などで、盛んに行われている一番人気のスポーツとは？
インドで圧倒的な人気のスポーツといえば**クリケット**。プロリーグの選手は国民的英雄です。イギリスの国技であるクリケットは、イギリスの植民地時代にインドへ持ち込まれ、広く普及しました。2028年のロサンゼルス五輪では128年ぶりに正式競技として復活することで、注目されています。



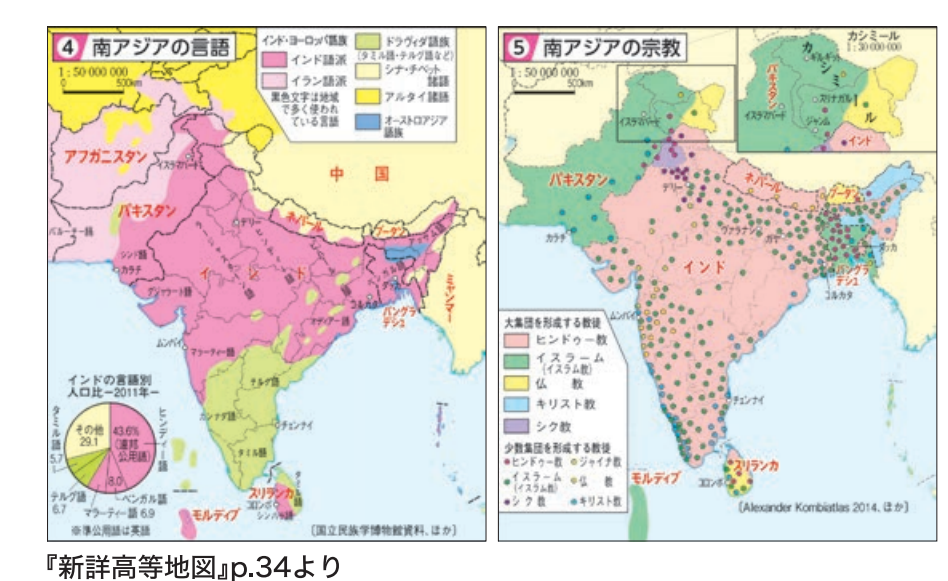
▲映画館は各地にあるが、近年は客の入りがいまひとつの様子。



世界的に有名なドローン製造会社 idea Forge 社



『新詳高等地図』p.33～34より



『新詳高等地図』p.34より

インドの基本情報
面積は328.7万km²で日本の約8.7倍
人口は約14億で2023年に中国を超え世界一となりました。
上の主題図からも分かるように多言語かつ
ヒンドゥー教を中心にさまざまな宗教が信仰され、
北部と南部では文化や生活様式に大きな違いがあります。
首都は代々の王朝が都を築いてきた
北部の都市デリーです。

ベンガルールのICT 企業で働く女性



人と車が行き交うムンバイの商店街

活気あふれる商店街やショッピングセンター
インドの国土面積は日本の約8.7倍もありますが、人口密度は日本の331人/km²を上回る416人/km²。都市部の商店街ではストリートに人と車があふればかりに行き交い、活気がみなぎっています。



▲大都市の高級ショッピングセンターでは、スマホが並ぶ家電店やアパレルストアなど日本の都市と変わらない光景が見られます。

米、小麦など地方色豊かなインドの食文化
地域によって地形や降水量などの気象条件が異なり、さまざまな宗教が分布するインドでは、多彩な食文化が見られます。
▶インドでは宗教上の理由から、乳製品からたんぱく質を摂るベジタリアンが多く、街中にはたくさんのミルクスタンドがあります。インドにおける生乳生産の急増は「白い革命」と呼ばれ、乳製品の消費量は世界一です。
▶インド北部の主食は小麦でつくるチャパティが主流。一方、南部は米食が多く、右手でカレーとライスを混ぜ、親指で押し込むように食べます。
▶たっぷりのミルクと砂糖を入れ、紅茶を煮出してつくるチャイ。



ニルギリ丘陵の玄関口 クーノールのカラフルな街並み

3 Nilgiri ニルギリ

「ニルギリ紅茶」の故郷
インド屈指の避暑地はいつ誰が開発した？
西ガーツ山脈の南部に連なる高地はニルギリ丘陵と呼ばれ、世界的な高級紅茶の産地として知られています。ニルギリの冷涼な気候は、品質の良い紅茶栽培に欠かせません。また、19世紀半ばにインドを植民地としていた、暑さに慣れないイギリス人の避暑地として開拓された歴史もあります。



世界遺産「インドの山岳鉄道群」
イギリスの植民地時代に避暑客と紅茶を運ぶ目的で建設されたニルギリ山岳鉄道は、世界遺産に登録されています。



山肌広がる茶畑。▲
歯車とレールを噛み合わせて急勾配を登るアプト式蒸気機関車が力強く後押し



イギリスとインドの建築様式が融合した「チャトラパティ・シヴァージー・ターミナス駅」は近代インドの歴史を物語る世界遺産

4 Munbai ムンバイ
「インド最大の商都」
多様な文化を持つ街の光と陰とは？
イギリスがインド進出の拠点としたムンバイは、インド最大の商業都市に発展し、古い建物にはその影響が残っています。一方で、近代的な高層ビルとスラムが隣り合う光景からは、今なおカーストによる差別や貧困があることがうかがえます。



スラムで働く洗濯業ジャーティの若者。